

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-154	15-083	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
The influence of perceived neighborhood disorder on smoking cessation among urban safety net hospital patients. 都市のセーフティネット病院患者の禁煙における近隣環境の認識の影響		
<b>執筆者</b>		
Ma P, Businelle MS, Balis DS, Kendzor DE.		
<b>掲載誌</b>		
Drug Alcohol Depend. 2015 Nov 1;156:157-61. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2015.09.004.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アフリカ系米国人、地域無秩序、喫煙、禁煙、社会経済的地位		26386824
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>客観的な地域特性は喫煙などの保健行動と関連していることが示されているが、禁煙の試みへの近隣環境の自己認識の影響についてはほとんど知られていない。</p> <p><b>方法：</b>ダラスのセーフティネット病院の禁煙プログラムに登録した参加者 139 人を、禁煙の 1 週間前から 4 週間後まで追跡した。近隣環境は、地域の物質的・社会的な秩序と無秩序を評価する 15 項目（街の綺麗さや落書き、住民同士の信頼感、薬物やアルコールの使用、犯罪など）について、対象者が 4 段階で評価し合計点を算出した。禁煙の評価は、禁煙後 4 週間の禁煙継続の自己申告、4 週間後の時点の過去 7 日間禁煙状況の自己申告に加えて呼気の一酸化炭素濃度が 8ppm 未満であることとした。ロジスティック回帰分析を用いて、禁煙の継続達成の可能性における近隣環境の自己認識の影響を人口学的特性、1 日の喫煙本数、介入グループ、薬物治療を調整し検討した。</p> <p><b>結果：</b>参加者は、非白人 72.7%、年齢 52.5±3.7 歳、女性割合 56.8%、世帯年収 25 万ドル未満 86.3%であった。禁煙 4 週間後の時点の過去 7 日間禁煙の割合と地域の秩序が良いという認識は、物理的(p=0.048)、社会的(p=0.039)な項目の両方で正に関連していた。地域の秩序が悪いという認識は、物理的 (p=0.035) 、社会的(p=0.039) な項目の両方で負に関連していた。これらすべての合計(p=0.014)も禁煙達成の可能性を低くした。社会的な秩序が良いという認識は禁煙後 4 週間の連続禁煙の可能性の増加と関連していたが(p=0.020)、地域の物質的・社会的な秩序と無秩序の合計では 4 週間の連続禁煙は減少した。</p> <p><b>結論：</b>地域の秩序と無秩序の自己認識は、禁煙を試みる社会経済的に恵まれない喫煙者の禁煙の可能性と関連していた。</p>		